

IAUD Newsletter vol.7 第1号 (2014年4月号) 目次

- 1. 第4回定例セミナー「2020年東京オリパラに向けて」講演概要 1
- 2. 第5回国際ユニヴァーサル会議 2014 開催決定のお知らせ 6
- 3. 2013 年度成果報告会 研究部会の取り組み紹介 6
- 4. IAUD アワード 2014 応募受付開始のお知らせ 14
- 5. IAUD 5月の行事予定 15

共にユニヴァーサル、インクルーシヴな社会の実現へ

特集：第4回定例セミナー「2020年東京オリパラに向けて」講演概要



大盛況で終了した定例セミナー 会場の様子

各省庁や自治体関係者を講師にお迎えし、UDに関する政策や課題などについてお話いただく「第4回定例セミナー」が、3月17日(月)に NEC 本社 B1F 講堂(東京都港区)で「2013年度成果報告会」と同時に開催されました。

今回は「2020年東京オリパラに向けて」と題して、平田 竹男氏(内閣官房参与/内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室 室長)にご講演いただきました。

平田氏には、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会プレゼンターとしてスピーチを行い招致に貢献した佐藤真海選手との出会いのエピソードを紹介しながら、パラリンピックの重要性や2020年東京大会の概要、政府の主な取り組みや課題などについてお話しいただきました。

当日は IAUD 総裁の瑠子女王殿下にご臨席いただく中、会員やメディア関係者など約 150 人が参加し大盛況のうちに終了しました。

今号の Newsletter は第4回定例セミナーの講演概要をお伝えします。



ご聴講なさる瑠子女王殿下

※「2013年度 IAUD 成果報告会 & 定例セミナー」の開催速報は Newsletter vol.6 第20号をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1403/28-185349.php>

講演「2020年東京オリパラに向けて」

平田 竹男氏

(内閣官房参与／内閣官房 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室 室長)

パラリンピック陸上 佐藤真海選手との出会い

2006年より早稲田大学大学院スポーツ科学研究科教授を務めており、教え子の一人にパラリンピック陸上の佐藤真海選手がいます。

佐藤選手は、「パラリンピックの日本における振興を研究したい」と、2011年に入学しました。その年は翌年のロンドンパラリンピックの予選会で忙しい年でしたが、佐藤選手は「自分はアテネと北京のパラリンピックに参加したけれど満員だった。しかし、日本ではパラリンピック活動に注目が集まらないので、何とかしたい」という、ロンドン大会終了まで待てない強い動機がありました。

そこで、研究と予選会の記録突破を両立させるために、私は国際大会で各国のパラリンピアンに研究のためのインタビューをすることを提案しました。優れたパラリンピアンが結集する国際大会を、佐藤選手の研究の場にするのです。

大学院合格後すぐに、佐藤選手は各国代表に「あなたの国ではどのようにパラリンピアンを支援しているのか」「どこに属しているのか」「コミュニティからどういう支援を受けているのか」など、インタビューを始めました。

また、東日本大震災の発生後、気仙沼出身の佐藤選手は連日被災地に入り、子どもたちを励ました。義足で一緒に走ったり歩いたりするうちに、最初は頬が動かない子どもたちも彼女と触れ合うあうことで少しは頬が動くようになっていったそうです。



パラリンピックに貢献したい

佐藤選手は2012年も研究のために試合前に選手にインタビューを続けながら、記録も伸ばしていきました。私も佐藤選手と過ごすうちに、パラリンピックの必要性や重要性を認識し、さらに、満員のパラリンピックロンドン会場で多くの人が熱心に応援している姿を見て、なんとかしてパラリンピックを応援したいと感じました。

その後、佐藤選手は東京オリンピック・パラリンピック招致委員会プレゼンターに選定され、2013年9月のIOC総会最終プレゼンテーションでスピーチを行いました。私も8月に内閣参与に任命されたので、佐藤選手のスピーチに立ち会えました。

スポーツの力を世界でどうアピールするか、それを各国で具体化することが、オリンピック・パラリンピック精神です。私はこれを訴える人として、佐藤選手こそが相応しいと考えていたので、日本の招致関係者には素晴らしい人選をしていただいたと感謝しております。

東京開催決定後、私は2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室の室長になりました。こうした仕事に携わると考えてもいみませんでした。もともとパラリンピック振興を佐藤選手と研究してきた関係で何か貢献したいという気持ちがあり、それができるとなると胸一杯な毎日です。

2020年東京大会概要

2020年東京大会の概要	
第32回オリンピック競技大会 2020年（平成32年） 7月24日（金）～8月9日（日）＜予定＞ 28競技 陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車競技、卓球、馬術、フェンシング、柔道、バドミントン、射撃、近代五種、カヌー、アーチェリー、テコンドー、トライアスロン、ゴルフ、ラグビー	第16回パラリンピック競技大会 2020年（平成32年） 8月25日（火）～9月6日（日）＜予定＞ 22競技（予定） アーチェリー、陸上競技、ボッチャ、カヌー、自転車、馬術、5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、セーリング、射撃、水泳、卓球、トライアスロン、シッティングバレーボール、車椅子バスケットボール、車いすフェンシング、ウィルチェアラグビー、車いすテニス
○第30回オリンピック競技大会（ロンドン） ・2012年（平成24年） 7月27日（金）～8月12日（日） ・204か国・地域 ・26競技、302種目 参加選手数 約10,500人 ○第18回オリンピック競技大会（東京） ・1964年（昭和39年） 10月10日（土）～10月24日（土） ・93か国・地域 ・20競技、163種目 参加選手数 約5,100人	○第14回パラリンピック競技大会（ロンドン） ・2012年（平成24年） 8月29日（水）～9月9日（日） ・164か国・地域 ・20競技・503種目 参加選手数 約4,200人 ○第2回パラリンピック競技大会【愛称】（東京） ・1964年（昭和39年） 11月8日（日）11月12日（木） ・22か国・地域 ・9競技・144種目（車椅子のみ） 参加選手数 238人

4

東京大会期間中は大変暑いことが想定されます。諸外国からたくさんの方が来られますが、猛暑の中、どのように大会をするかが大事な課題になります。

また、パラリンピックは開催時期が夏休み期間外にも及んでいますが、パラリンピックこそ、見ることが勉強になると思うので、是非子ども達にご覧になっていただきたいです。さらに、どうしても多くの方に期間中に仕事とボランティアの両立が可能になるかを考えることも重要です。

交通機関や公共空間のバリアフリー化促進も

開催決定後の主な動き	
平成25年	9月7日 IOC総会で東京が開催都市に決定 9月10日 第32回オリンピック・第16回パラリンピック競技大会の東京招致に関する閣僚会議の開催（決定報告） 9月13日 下村文部科学大臣を東京オリンピック・パラリンピック担当大臣に発令（参考：1964年東京大会においては、佐藤栄作氏、池田勇人氏等が歴任）
	10月4日 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室（内閣オリパラ室）の設置 <安倍総理のご発言> 「『まだ7年ある』ではなく、『もう7年しかない』」 
	10月11日 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会関係府省庁連絡会議（事務次官級）（第1回） 10月～ 以下の団体等と複数回にわたり意見交換 ・東京都 ・日本オリンピック委員会（JOC） ・日本パラリンピック委員会（JPC）、日本障害者スポーツ協会 ・関係府省庁
平成26年	1月24日 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会設立 1月31日 関係府省庁連絡会議 東京都との連絡協議会（第1回）

7

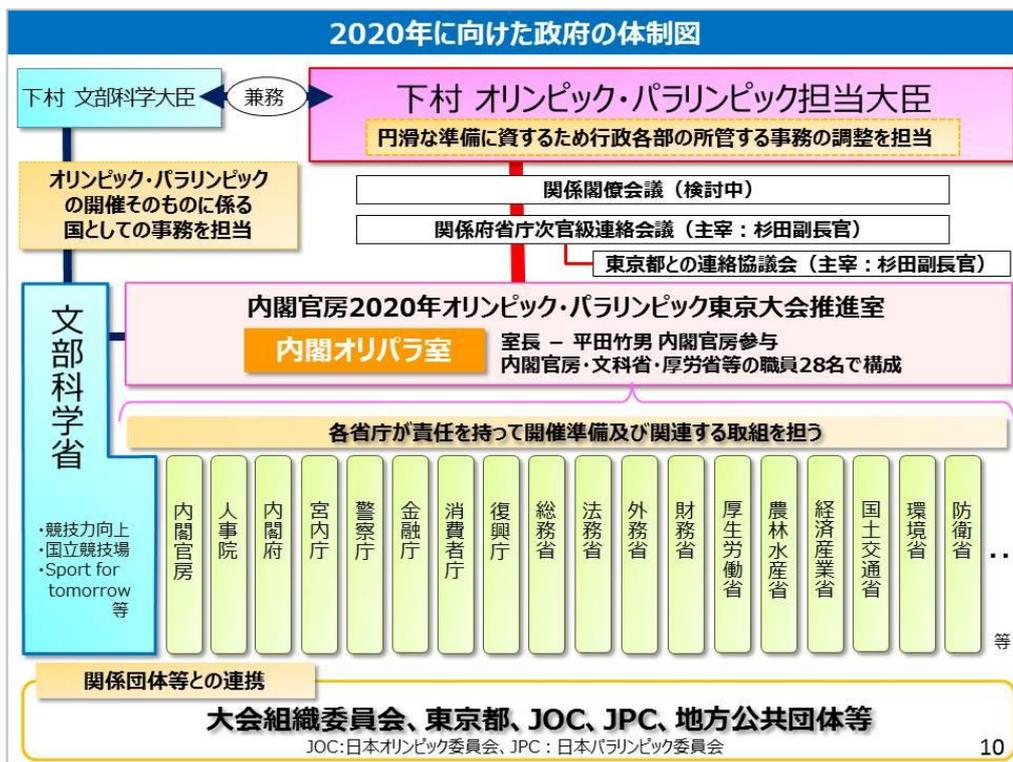
開催決定後、ただちに下村大臣が担当大臣に任命され、10月4日には推進室ができました。大変長い名前であるので、略称を「内閣オリパラ室」に決定しました。五輪というとパラリンピックは入っていません。何とかパラリンピックを必ず含む表記は何かを考え落ち着いたのは、「内閣オリパラ室」です。新しい言葉として「オリパラ」としました。内閣オリパラ室は、各府省庁の取組を取りまとめる組織です。

1月の東京都との連絡協議会では、東京都から以下のような要望がありました。

- ・競技施設や競技会場、選手村の整備。
- ・三環状道路や臨港道路南北線などの輸送インフラの整備。
- ・交通機関や公共空間のバリアフリー化の促進：
- ・テロ対策など治安対策の強化。
- ・国内外からの観光客の受け入れ体制の整備：国内外からの観光客の受け入れ体制の整備は重要です。英語、中国語、韓国語だけでなく、レストランや交通機関、病院やコンビニ、ホテルでも多言語が通用する日本にしていくことが大事です。

スポーツ大会の運営ではありますが、オリンピック・パラリンピックを機会にしてどのように日本を変えていくのか、2020年までに外国人や障害者にも過ごしやすく楽しんでもらえるようにする作業となり、社会活性化の仕事ともいえると思います。

2020年に向けた各省庁の取り組み



国土交通省では道路整備やバリアフリーに関する施策、また、観光庁においては多言語表記に関する施策、環境省では環境対策に向けた施策、農水省では和食のような日本文化の発信、厚生労働省では医療の国際化や障害者スポーツの振興、財務省、外務省、法務省等では税関・ビザ発給・入国審査等の入国に関する施策といった具合に様々な施策が各府省庁にまたがって存在します。また、復興庁における震災からの復興に向けた取組も大変重要であり、2020年大会との連携も図っていきたいと考えております。

東京大会を成功に導くために

- ・大会組織委員会を中心に、スポーツ界、東京都、政府、民間などが一体となって、オールジャパンで推進。
- ・オリパラ一体。
- ・日本ブランドを世界に発信:「おもてなし」に象徴されるように、日本人のもつ独特の世界や日本ブランドをライブで世界に発信できます。
- ・全種目でしっかりとした準備。メダルを多く獲得することが開催国としての責務。
- ・自国選手が良い成績を残すことも日本の一体感に重要。



熱心に講演に聴き入る参加者

パラリンピック成功が重要

- ・2020年東京大会ではパラリンピックの成功が重要:東京でのパラリンピック開催は2回目で、同一都市での開催は史上初です。
- ・インフラの整備:世界中から車いす利用者や盲ろう者をお迎えしますが、日本が誇らしいインフラを持っているとは思いません。オリパラを前倒しで、準備したいのです。日本のため、世界のために必要と思います。そういう意味でも、ユニヴァーサルデザインの推進は非常に重要です。
- ・受け入れる市民が手助けをするという心のバリアフリーが重要:日本人は手助けには向いていますが、不慣れです。一瞬とまどうような心のバリアをどう変えるか、心のバリアをどう学校教育で変えるのか、手助けが不要な場合はその表示をどうするかなど考える必要があります。
- ・東京オリパラは人の心の持ち方を変え、社会を変えるメッセージでありレガシー。
- ・2020年東京大会を機に、先進国共通の諸課題を持つ日本が、世界のモデルとなるべき。

Beyond Tokyo, Beyond Sport, Beyond 2020

- ・地方に練習拠点(2002年W杯カメルーン代表大分県中津江村など)。
- ・海外のオリパラ選手を地方の小中高の生徒、市民が歓迎する:大会終了後も、すぐに帰国しないで地方の方とも交流してもらいたい、地方の学校とも交流が進むことを願います。
- ・スポーツと文化の祭典(文化プログラム(オリンピック憲章))。
- ・多様な外国人が楽しめる環境作り(多言語対応)。
- ・新しいテクノロジーでおもてなし:2020年までには、電動車いすなど新しいテクノロジーの進展も想定されます。
- ・2020年の観光客2000万人。
- ・2020年以降に残るレガシー。

オリパラはスポーツのためではない、2020年のためのもものだけではありません。各方面で2020年に向けて努力をしていますが、そこで終わりではなく、その先に次に何を残すかを考えていきたいと思っています。インフラをどう変えるか、どう残すかだけでなく、日本の心をどう次世代に持って行くかが、ますます重要になります。

IAUD に期待すること

本日お集まりの UD の各リーダーとして活躍される方々、2020 年に向けた我々の努力に参画していただき、一緒にユニヴァーサル、インクルーシブな社会になることを祈念します。(了)



テーマは「UD のグローバル展開」

「第 5 回国際ユニヴァーサル会議 2014」 今秋に東京で開催!!

IAUD は「第 5 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014」を 11 月 11 日(火)から 13 日(木)の 3 日間、東京国際交流館(東京・台場)で開催します。

今回の会議テーマは、「ユニヴァーサルデザインのグローバル展開～東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて～」です。

公開シンポジウムや論文発表セッション、展示会のほか、今回は地域参加型のワークショップや公開セミナーも実施予定です。

どうぞ奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

※詳細内容は下記の国際 UD 会議 2014 公式サイトをご覧ください↓

<http://www.ud-2014.net/>



第 4 回国際 UD 会議 開会式

今年度の振り返りと 2014 年度の活動に向けて

「2013 年度成果報告会」研究部会の取り組み紹介



成果報告会でのパネル展示

2013 年度の各委員会及び研究部会の活動成果を報告する「2013 年度 IAUD 成果報告会」が 3 月 17 日(月)に NEC 本社 B1F 講堂(東京都港区)で行われ、6 つのプロジェクトと 1 つのワーキンググループから、2013 年度に実施された重要な取り組みが報告されました。

研究部会は、できる限り多くの人々が快適に暮らしやすい社会の実現をめざし、さまざまな生活シーンにおいて魅力ある製品やサービスを創出するため、業種・業態を超えた 7 つの共同研究プロジェクトを、生活者との対話を中心において幅広い視点で推進しています。

今号の Newsletter は、会場に展示された研究部会の活動を紹介したパネルを掲載します。

なお、IAUD は現在、研究部会・委員会活動にご参加いただける方を募集中です。詳細はこちらをご覧ください。↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1204/17-134308.php>

※「2013 年度 IAUD 成果報告会」での各委員会及び研究部会の報告は、ウェブに掲載中のレポート(会員限定)をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1404/02-000000.php>

住空間プロジェクト

住空間プロジェクト
研究部会

概要



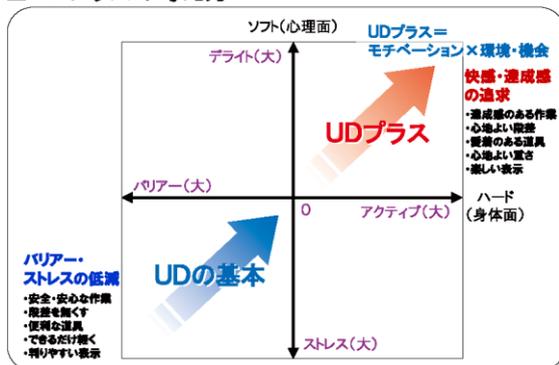
誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、生活シーンからのアプローチによるテーマ研究を進めており、様々な視点から「楽しいUD」の実現を目指しています。

1. 機能低下を防ぎ向上させる、新たなUDの提案

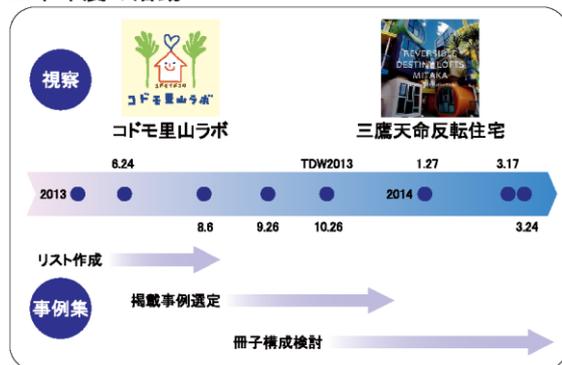
身体的、心理的に適正な負荷(刺激)を与えることで、機能低下を防ぎ向上させるというUDプラスのコンセプトで、新たなUDのあり方の事例研究に取り組んでいます。

仮説：『UDプラス＝モチベーション × 環境・機会』

■UDプラスの考え方



■本年度の活動



住空間プロジェクト
研究部会

研究テーマ



2. 「UDプラス」視点での先進事例視察

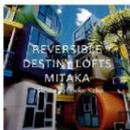
■コドモ里山ラボ



所在地：東京都八王子市
多摩ニュータウン 東京森都心
建築設計：積水ハウス株式会社
主要用途：住宅
面積：1F 74.64㎡ 2F 61.46㎡
延床 136.10㎡



■三鷹天命反転住宅



所在地：東京都三鷹市
建築設計：荒川修作+マドリン・ギンズ
安井建築設計事務所
主要用途：共同住宅
延床面積：1761.46㎡
総戸数：9戸(2LDK+3LDK)
52.38㎡～60.65㎡



■移動空間プロジェクト

移動空間プロジェクト
研究部会

概要



公共交通のシームレスな移動空間の実現へ

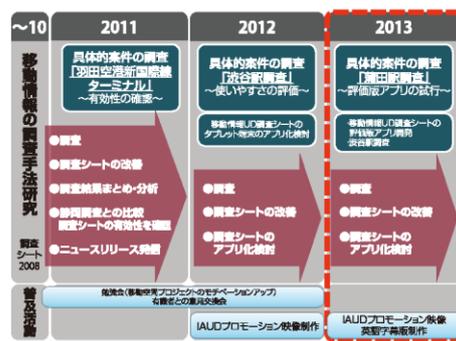
移動空間PJは、「情報の継ぎ目のない移動環境の実現」を目標に研究活動を行っています。

- 「移動情報の調査手法研究」として案内情報の調査シートを作成し、実地検証を行っています。
また、調査シートのタブレット端末アプリ化による更なる利便性の追求も模索し、評価版のアプリを開発しました。
- UDの更なる普及を目指して昨年度制作した、IAUDプロモーション映像の英語字幕版を制作しました。
< <http://www.iaud.net/udroom/archives/1306/07-121212.php> >

●活動目標



●活動の経緯



●メンバー 参考：江藤 祐子(TOTO) 主査：横川 浩大(総合車両製作所) 副主査：津田 学(NTTデータ) 副主査：陽川 まり(クラリオン) 事務局：加藤 寛(カルソニックカンセイ) 山本 真也(NTTデータ) 伊賀 公一、岡川 恒輝(カラーユニバーサルデザイン機構) 渡邊 聡(個人賛助会員) 和田 紀彦(個人賛助会員) 森 幹太(サンデン) 前田 亮一(たいてい診療所) 池田 聡(ダイハツ工業) 永井 えいし(DNP映像センター) 清水 由美子(東京都市大学) 西田 尚之(日野自動車) 堀内 陽子(Proton2 Design Associates) 御影 幸宣(ヤマハ) 伊藤 聡一(rolo.Concept)

移動空間プロジェクト
研究部会

研究テーマ



公共交通のシームレスな移動空間の実現へ

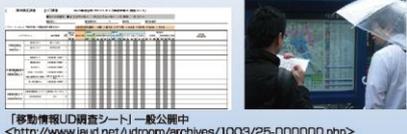
調査シートのタブレット端末アプリ(評価版)を開発

移動情報UD調査手法をブラッシュアップ

→アプリ化することで従来の紙版調査シートの課題を解決。より使いやすく調査の省力化を図っていきます。

紙版調査シートの課題

- ・集計が手入力なので非効率
- ・持ち物が多く調査しづらい
- ・小紙面の都合上、調査項目を絞っている
- ・文字が小さく見づらい



「移動情報UD調査シート」一般公開中
<<http://www.iaud.net/udroom/archives/1003/25-000000.php>>

- 評価入力を簡素化
- 調査項目を充実化
- ユーザビリティに配慮
- データ集計の省力化
(評価版のため未実施。来年度実施予定)

街の中にある分かりづらい案内情報をゲーム感覚で共有するアプリ

■アプリ開発およびユーザー開拓計画



開発した評価版アプリ

- トップ画面
- ユーザー情報の追加・変更画面
- 調査ルートの編集画面
- 調査画面・調査履歴の表示画面

交通/バリアフリー整備ガイドライン(改訂版)を参考に分類

地図上にピンをドロップするだけで、調査する場所を簡単に追加

項目をタップ・選択して、いくだけの簡単な入力。その他欄には、音声でテキスト入力も可能。

アプリ制作協力：株式会社システム

■労働環境プロジェクト

労働環境プロジェクト 概要



ワークショップ「もし、働き方を選べるとしたら？」

もし、働き方を選べるとしたら？

日時 2013年5月16日
場所 カタリストBA (二子玉川)
参加者 約50名(一般公募含む)、40社

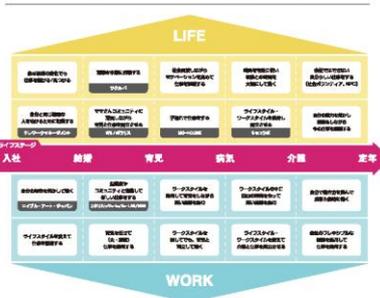
「なぜ私たちは働き方を選べないのか？」
という問いを投げかけ
未来の労働環境において
企業人が「時間・場所・組織・特性・状況」
などの壁を自ら越えて
多様性のあるワークスタイルを
どう実現するのかを模索。



ワークショップで議論された ワークスタイルのアイデア

LIFE	<p>サステナブルな生活を働き方で実現する 志事スタイル</p> <p>生活に密着した仕事を考える化で実現する 知的ワークスタイル</p> <p>遊戯性をマイプロジェクトで実現する パレルプロリマンススタイル</p> <p>「働きながら」をテレワークで実現する 賃が上がる/賃を上げるスタイル</p> <p>企業保証と個人保障の両立を多様な働き方で実現する 状況に合わせた機能別ワークスタイル</p> <p>オープンイノベーションを特区で実現する シリコンバレースタイル</p>	<p>遠郊にないキャリア、 国民・市民の高度雇用上、 社会的な貢献</p> <p>地域に新しいフレイヤーを、 共存、安心安全</p> <p>複数のプロフェッショナル係、 企業・組織との連携、相乗効果</p> <p>セルフマネジメント/管理職の 新しいマネジメント能力、 雇用の維持・拡大</p> <p>自分の価値向上、企業人の 能力・スキルを社会で活かす</p> <p>日本のR&D部門のワーキング スペースを作る、国際競争力、 スピニング</p>
WORK	<p>価値をIoT(クラウド)で実現する CROWD CLOUD スタイル</p>	<p>共創、自営家、 目録(保証)の共有、継続的進化</p>

ワークスタイルアイデアから導いた ワークライフストーリーマップ



WEBサイトやブックレットなどメディア化して 新たなワークスタイルを発信



運営：東京バウス株式会社、主催：富士通デザイン株式会社、監注：株式会社リコーメンター、株式会社イトーエ、キヤノン株式会社、パナソニック株式会社、買取会興

労働環境プロジェクト 研究テーマ



多様性あるワークスタイル×ライフステージ

労働環境プロジェクトでは、様々な特性をもつすべての人が気持ちよく働ける未来の労働環境を目指して活動しています。

概要

ライフステージで変化し続けるワークスタイルにおいて、
すべての人の多様性を活かし、自分のスタイルで
新たな可能性を生み出すワークスタイルを発信します。

ライフステージ



「ユニヴァーサルな働き方」の先進事例を調査

有限会社 MO-HOUSE 様

子連れ出勤というスタイル

おっぱいライフを快適にするストレスフリーな授乳服を
製造・販売している会社

母となった女性が生き生きと暮らせる社会を目指し
「子連れワークスタイル」を実践

株式会社 CO-BA 様

「場」×「コミュニティ」

新たなプロジェクトを生み出すためのシェアードオフィス

場所と機会とアイデアを共有して「ソーシャル・
キャピタルを構築し、シェアードスタイル」を実践

IOG 東京大学高齢社会総合研究機構 様

住み慣れた地域で自分らしく老いる

課題の特定化→研究プロジェクトを立ち上げ→社会での実践

社会実験型の研究プロジェクトを柏市で展開し、
新たな「雇用創出の仕組みとシニアワーク」を実践

コンセプト

私たちは「うれしい、楽しい、面白い」をキーワードに余暇が充実する社会づくりを目指して活動しています。

誰もが参加できて！
出来なかった事ができて！



充実した時間を過ごせて！
わくわくする！

五感に感動の余韻が残って！
気持ちがとても新鮮になって！

プロジェクト活動

私たちは、メンバーの属性や特徴を活かしたテーマに取り組んでいます。月一回の定例会に加え、UD施設見学や有識者講演なども行っています。



参加メンバー

株式会社NTTデータ (特非) カラーユニバーサルデザイン機構
大日本印刷株式会社 株式会社リコー メンバー11名
株式会社DNP映像センター 他賛助会員6名



余暇のUDプロジェクト テレビCMにも字幕を!

CM字幕実現へIAUDならではの活動を続けていく。

2013年度 CM字幕動向

2013年4月	2013年度 トライアル実施企業 (50首順)	2014年1月								
<ul style="list-style-type: none"> ■日本民間放送連盟 「トライアルにおける字幕付きCM素材搬入ガイドライン」を発表 ■日本広告業協会 「CC字幕付きTVCMトライアル放送2013制作・入稿作業進行要領」を策定 	<table border="0"> <tr> <td>花王株式会社</td> <td>キヤノン株式会社</td> </tr> <tr> <td>JSR株式会社</td> <td>株式会社 東芝</td> </tr> <tr> <td>パナソニック株式会社</td> <td>東日本旅客鉄道株式会社</td> </tr> <tr> <td>株式会社 日立製作所</td> <td>ライオン株式会社</td> </tr> </table>	花王株式会社	キヤノン株式会社	JSR株式会社	株式会社 東芝	パナソニック株式会社	東日本旅客鉄道株式会社	株式会社 日立製作所	ライオン株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ■総務省 「スマートテレビ時代におけるCM字幕の在り方に関する検討会」 「CM字幕ワーキンググループ」設立
花王株式会社	キヤノン株式会社									
JSR株式会社	株式会社 東芝									
パナソニック株式会社	東日本旅客鉄道株式会社									
株式会社 日立製作所	ライオン株式会社									

2013年度 余暇のUDプロジェクトの活動

<p>5月: CM字幕勉強会実施</p> <p>会場: 株式会社 NTTデータ INFORUM 豊洲イノベーションセンター</p>	<p>10月: Facebookページ「CM字幕応援団」開設</p>	<p>11月: CM字幕勉強会「CM字幕に関する最新動向」報告書発行</p>	<p>CM字幕本放送実現へ</p>
---	------------------------------------	--	--------------------------

余暇のUDプロジェクトでは、広告主や生活者などへの「CM字幕勉強会」などを通じてこれからもCM字幕本放送実現に向けて活動を続けて行きます。

■衣のUDプロジェクト

衣のUDプロジェクト
研究部会

概要



機能性とファッション性の融合

「ユニヴァーサルデザイン」という万人に受け入れられることを目的としたデザインと「ファッション」という個性や、流行を重視したものという一見相反する概念を融合させることをテーマに活動を続けています。

<その機能は美しいか>

衣服におけるユニヴァーサルデザインの構築
UD製品の研究、開発、普及



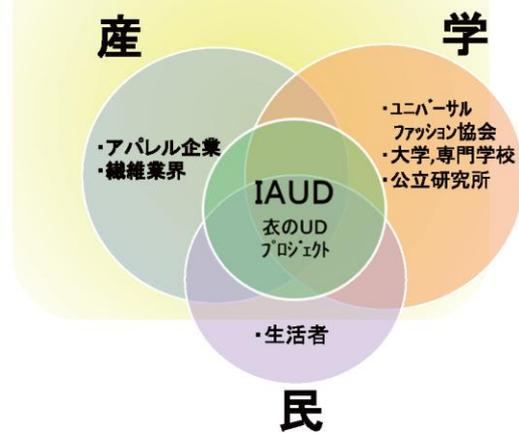
それには<産学民共同>作業は必須事項

産 ・新しい素材・副素材の情報と提供
・製品化による社会貢献

学 ・衣服の学問的見地、ファッション情報
・評価・検証とデータ収集

民 ・ニーズの発信
・情報交換

産・学・生活者 共同で創造していく



衣のUDプロジェクト
研究部会

研究テーマ



UDジャケットの研究開発・普及

日常性がありタウンでも着られる
多機能なUDジャケットの
外部機関への貸出/量産シミュレーション

ふくおかモデルUDジャケットコンセプト

<その機能は美しいか> + 災害時にも役立つ



フード内に
ショックアブソーバー



袖口や肩に再帰反射テープ



袖下がシームレス
なので、肘が
通りやすい



ポケットを改良し
防災品を収納



背中にも収納ボックスを内蔵

「衣を着る」英訳 2カ国語版制作

「衣のUD」を考えることは
幅広く暮らしや人生を捉え直すこと

2014年国際大会参加者へ配布予定



上:2013年度英訳2カ国語版

右:2012年度日本語版



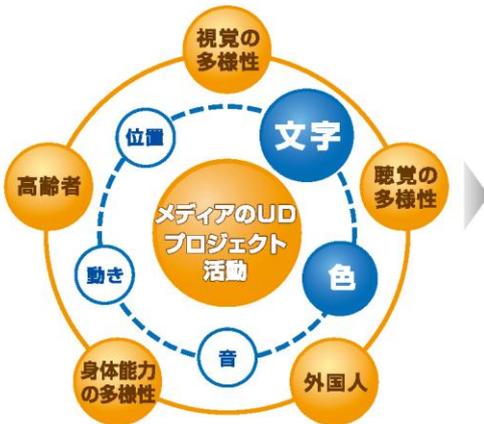
■メディアのUDプロジェクト

メディアのUDプロジェクト 研究部会



メディアのUDプロジェクトは、メディアにおけるUDの課題を
関係機関に発信し、情報保障への社会的配慮を促します。

メディアのUDプロジェクト
想定される活動領域



2013年度 新テーマ「書体」

2009年度～2012年度

■ 多くの人に伝わる「イメージ×配色」の研究
● カラーUD配色イメージスケール<第1版>

● 運用事例

■ 多くの人に伝わる「グラデーション」を研究
「対象情報の配色に関する設定指針(対象庁)」策定*に協力

● 降水強度分布観測データ(メディアのUDプロジェクト案)

● 色覚シミュレーション例

10色汎用
カラーUDグラデーション

*1 日本気象協会、東京大学分子細胞生物学研究所、カラーユニバーサルデザイン機構との共同チームにより実施

メディアのUDプロジェクト 研究部会



2013年は、プロジェクト内にて書体に関する課題・問題を抽出し、
関係ステークホルダーへ取材を実施。

課題抽出

ワークショップを通じて書体における問題意識や課題を抽出。



書体における問題意識・課題一覧

ヒアリング

問題意識や課題を基にフォントベンダーやデザイナーへ取材。

ヒアリング要旨

- UDフォントの開発経緯・特長
- 最適な書体の選び方
- わかりやすさ、読みやすさを実現する要素について

ヒアリング先

- 株式会社モリサワ：姫井 晃 様
阿野勝俊 様
- 株式会社イワタ：水野 昭 様
- デザイナー：永原康史 様



気づき

ヒアリングでの気づき

- ① 伝えるメディア、伝えたい意図によって書体は選定される。UD書体を使えば、必ず見やすさが確保されるとは限らない。
- ② UD書体の特長を踏まえて使用することで、視機能に障がい・困難を持つ方に対して判別しやすくなる。
- ③ 書体における見やすさは、UD書体の使用と同時に「サイズ・文字間・行間」等が重要。

■標準化研究ワーキンググループ

活動紹介

産業全般の UD レベル向上にむけて、共有すべき情報やルール（規格化）の研究を行っています。

調査・講演会など開催

多様化したユーザーニーズに即した各種勉強会等からの織込み充実

活動の軸
IAUD・UD マトリックス

UD 開発ツール

使い手を正しく理解するために「多様な人の属性」に着目し、「IAUD・UD マトリックス」を公開

Excel 版 / IAUD・UD マトリックス (データ配布は IAUD 会員限定)

多様なユーザーを想定する
タスク分析ツール

**開発シーンを補完する
3つの IAUD・UD マトリックス**

Web 版 / 情報集・事例集

多くの人で共有でき
検索性の高いツール

2011 年度改訂 「検索機能」を追加し
対象性を高める

2012 年度改訂 「事例集」の見直し

開発現場へ持ち込んで
素早く参照するツール

冊子版 / 情報集・事例集

活動成果

2013 年度の活動成果

1. 東日本大震災 被災地 UD 実態調査

■ 調査の背景
3.11 震災により、災害時の備えとして UD 対応のさらなる強化が求められている。昨年度は「非常持ち出し品」についての調査とワークショップを実施して、高齢者・障がい者を含め多様なユーザーを考慮した改善が必要なのことが分かった。2013 年度は、震災後の生活を考慮した UD 提言を行うため、被災地での「UD 実態調査」を行った。

■ 被災地の実態調査
一時避難所、仮設住宅での環境・インフラに関する調査 / 多様なユーザーの非常持ち出し品を含めた製品の使われ方調査

聞き取り調査

調査結果のマトリックス化

UD マトリックスへの落とし込み

■ 一時避難所、仮設住宅の主な聞き取り調査結果
【一時避難所】「明るくて寝れなかった」「歩く音がうるさいと言われるので移動できなかった」「トイレに異性の介護者が一緒に入れなかった」「外国産の非常食が支給されたが作り方が分からなかった」など
【仮設住宅】「管線ストープを使っていたのでエアコンの操作が分からない」「トイレや浴槽が狭く介護者が一緒に入れない」「洗濯物の干場が狭く干せない」など

2. UD マトリックス活用拡大に向けた活動

■ 背景と目的
IAUD・UD マトリックスについて、さらに多くの方々の、より使いやすいツールとするために使用実態アンケートを実施。

■ アンケートの主な結果

- UD マトリックス認知度が 30% と低い数値
- 70% の方が使ってみたいと回答され、ニーズとしては非常に高い
- UD マトリックスは、「チェックリストとして使える」「人間の多様な機能を横断して考えることができる」などの回答
- 使い方がわかりづらい、製品と結び付けにくいなどの回答が多く、使いやすさや情報の量と質に問題があることが判明

2014 年度の取組み

更なる UD 標準化の充実に向けて、マトリックスの織込み内容のスパイラルアップを継続して行う。

- 1 UD マトリックスの活用拡大に向けた方策**
- 2 UD 標準の普及方策**
研究会内の横断的活動も検討
- 3 「手話のありかた」分析と対策立案**
手話用語サブWGの活動

■手話用語サブワーキンググループ

手話用語サブワーキンググループ
研究部会

概要



活動紹介

活動コンセプト

手話を切り口に、誰でも安心して使って頂く製品・サービスを提供するためにはどうすればよいかを広く検討・普及させたい。



2012年度 SWGの認識とのギャップ 方針 聞こえる人と聞こえない人それぞれが感じている「手話のあり方」の調査と深掘り（現状把握） 2013年度 2014年度 分析と対策立案

1月 企業事例の講演会

「[アビ] 視覚 X 聴覚支援システム (株)」「[アビ] 聴覚 X 視覚支援システム (株)」「[アビ] ビデオ X 聴覚支援システム (株)」「[アビ] エコノミー X 聴覚支援システム (株)」

▶手話をベースに、文字、アニメーションを組み合わせた拡張手段を検討した。

【アンケートから】
文字・字幕があるのに
わざわざ手話も表示する
メリットが理解できない。

8月 勉強会

リコー・ヒューマン・クリエイト株式会社 講師 内田 眞子 様

日本手話で教えないと理解できないという者もいる。

講師の立場で、専門用語のほとんどが手話化されていく自分で手話化するのに苦労した。

*詳細は IAUD Newsletter Vol.5 第19号 (2013年2月号)に掲載しております。

9月 企業事例の講演会

筑波大学医学部 産科助産学系 産科助産学 講師 岡野 英子 様

手話によるコミュニケーションの困難さから、聴覚障害者のほとんどが人間ドックに採れず。

患者数の多い病院でさえ病名を表す手話単語がなかった。(高血圧、糖尿病、産科助産学等)

*詳細は IAUD Newsletter Vol.5 第19号 (2013年2月号)に掲載しております。

10月 座談会

余韻の UDPJ 手話用語 SWG 合同開催

聴者と聴覚障害者それぞれの体験を共有することで、手話の必要性、重要性を再認識できた。

新しく作られた手話をどのように普及させていくのが課題。(新しい手話が出てても、知らない聴覚障害者も多くなる。)

2月 視察・意見交換

社会福祉法人 全国手話研修センター 日本手話研究所 様

できるだけ多くの分野においても専門用語の手話化を望みたい。

専門用語の手話化は、機能説明と操作イメージ素材が重要な判断材料となる。製品・サービス提供者からの情報も必要。

取り扱い・操作説明書は誰かより手話のほうが理解しやすい。

アンケート調査や座談会結果の分析

機能用語やサービス名称の調査、分析

直感的で分かりやすい手話表現の考察

活動メンバー募集中です！



共生社会の実現に向けた革新的な UD 活動を支援 「IAUD アワード 2014」応募受付開始

IAUD は一人でも多くの人が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD アワード 2014」を今年も実施いたします。

「まちづくり、ものづくり、仕組みづくり等、持続可能な共生社会の実現に向けた革新的な UD 活動や提案」を審査対象とし、UD において一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対して「IAUD アワード」を授与します。

授与された対象には「IAUD アワード」マークの使用が許され、UD の普及啓発のために活用することができます。

また、すべての受賞対象の中で審査委員会が最も優れていると判断したものには「IAUD アワード大賞」、さらに IAUD 総裁「特別賞」や部門別「金賞」「銀賞」などを予定しています。

第一次審査への応募は 7月18日(金)までです。皆様のご応募をお待ちしています。
※詳細については、下記サイトをご覧ください↓

<http://www.ud-2014.net/award/index.html>



IAUD アワード 2013 表彰式

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5 子どもの日	6 振替休日	7	8 14:00～ 「五千円券改良記念式典」出席 @国立印刷局 東京工場 15:00～ メディア UDPJ @IAUD サロン	9 10:00～ 住空間 PJ @IAUD サロン	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 13:00～ 実行委員会 14:30～ 運営委員会 16:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	21 15:00～ 研究部会 @IAUD サロン	22	23 13:30～ 移動空間 PJ @IAUD サロン	24	25
26	27 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	28	29	30 13:00～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	31	

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2014 年 5 月発行予定

特集: 移動空間 PJ「移動情報 UD 調査シートタブレット端末アプリ 評価版の開発」

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net